情報通信

所作や行動発生音を通じたコミュニケーションの展開

用途・応用分野

- プライバシー保護を考慮した遠隔地の介護者-高齢者コミュニケーション
- チャットやSNSなどにおける間接的情報付与によるコミュニケーション補助
- 講演や授業の一対多人数コミュニケーションの補助

本技術の特徴・従来技術との比較

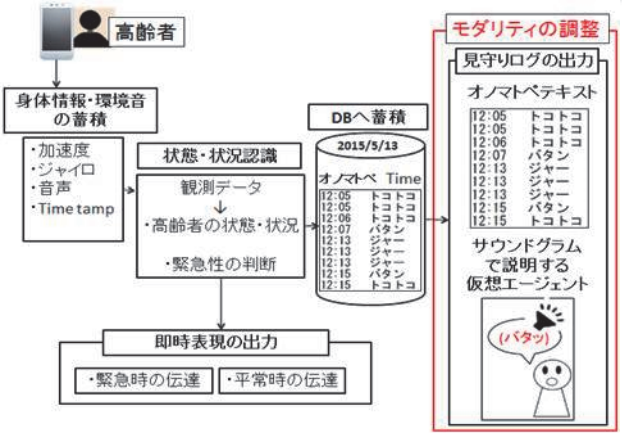
- 音声、身体情報の取得によるユーザ（独居高齢者や非介助者）の行動状態の推測
- 多人数ユーザや作業中ユーザなど、ユーザ状況に応じた適切な表現モダリティ選択およびモダリティボリューム調整の実現
- 多端末や多デバイスの通信によるセンサ・アクチュエータネットワークの実現

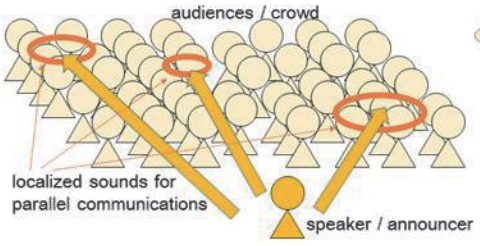
技術の概要

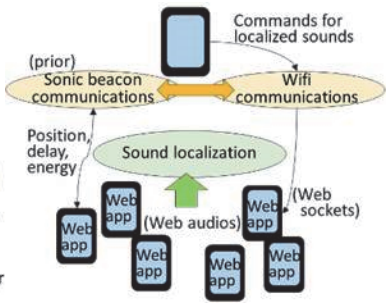
【日常行動推定と表現モダリティの選択】
・ユーザの身体状態・環境音情報を取得しオノマトペテキストとしてログ化
・利用者や観察者の状況に合わせて様々なモダリティで表現

【多人数ユーザ状況および講演者の興味推定】
・一対多コミュニケーションにおける聴衆の全体的な集中度や理解、疑問の傾向を把握
・特定聴衆グループに対する講演者の興味を推定し、パラレルコミュニケーションにおける適切なフィードバック手法（下記）を開発

【多端末間の音声同期による音場生成・制御】
・ユーザの個人端末を複数用いて音場生成するためのネットワーク通信および音響的同期手法を開発







特許・論文

＜論文＞

- 中、伊納、吉田、米澤、身体動作・環境音のオノマトペを含むテキストコミュニケーション手法の検討、HI学会論文誌、vol.17、no.2、pp 97-106、2015.
- Tomoko Yonezawa, Yosuke Ino, Naoto Yoshida, Yuki Ishikawa: "Integrating Auditory Space for Multiple People in Real World Using Their Personal Devices", UV 2016, II-2-5 (4 pages), 2016

研究者

米澤　朋子
総合情報学部　総合情報学科
米澤研究室

お問合わせ先
関西大学 社会連携部 産学官連携センター
TEL：06-6368-1245
MAIL：sangakukan-mm@ml.kandai.jp